

輸 血 部

教授:	星 順隆	輸血管理学, 小児血液腫瘍学, 造血細胞移植
教授:	溝呂木ふみ (第三病院)	血液腫瘍学, 内科学, 輸血管理学
准教授:	田崎 哲典	輸血医学, 外科学
講師:	増岡 秀一 (柏病院)	血液腫瘍学, 内科学, 輸血管理学

教育・研究概要

- 1) 医学演習講義 輸血と倫理 (90分×1回) 3年生
- 2) 外科学総論講義 輸血学 (90分×3回) 4年生
- 3) 臨床系実習 血液センター見学 (180分×10回) 4年生
実技実習 (180分×10回) 4年生
- 4) 救急医学講義 救急と輸血 (45分×1回) 4年生
- 5) 初期研修 輸血手技と輸血準備 (14時間×7回) 初期研修医

輸血部で受け持つ教育は、上記以外に、検査技師実習生、認定試験受験者の指導等多岐におよび、担当医師のみならず検査技師の負担は大きい。さらに、第三病院および青戸病院の初期研修医に対する講義もあり、大坪医師が感染研究所に外向して欠員状態のため、第三病院(溝呂木教授)柏病院(増岡講師)、と非常勤講師(長田医師)の助力で、教育を実施している。

輸血部での研究は

- 1) 輸血の安全管理(特に細菌感染対策): 血小板製剤の細菌混入確認試験の実施。さらに、ヘモビジランス体制構築のための副作用全数調査に参画。
- 2) 適正輸血の推進に関する検討: 院内の血液製剤の使用状況の解析を行い、適正輸血の推進に有用な方策を立案試行するとともに、解析をして輸血細胞治療学会総会で報告。
- 3) 自己血輸血の安全性の確立: 自己血輸血を安全に実施するために、採取方法、処理方法、保存方法等の検討を継続。
- 4) 安全な輸血システムの開発: 厚生労働省「レギュラトリーサイエンス研究事業」藤井班に分担研究者とし田崎准教授が、研究協力者として星が参加し、わが国の輸血医療の安全性確立のための調査研

究を実施。

5) 輸血検査機器の開発

全自動輸血検査機器の有用性の評価を実施するとともに、用手検査の重要性を検討。

「点検・評価」

田崎哲典准教授がスタッフとして参加し、研究体制の構築と管理体制の強化を図る事ができた。前年に引き続き第56回輸血細胞治療学会総会では3題、米国血液銀行協会(AABB)2008年次総会で2題を発表することができた。しかし、大坪寛子助教が10月より国立感染症研究所に外向し、再びマンパワー不足となってしまった。

今日、輸血副作用の主たるものは細菌感染症とTRALI(急性肺障害)であり、原因究明と予防法の開発が求められているために、研究の主体も細菌混入の同定法の開発に力をいれた。さらに国家プロジェクトとしてヘモビジランスシステムが、大坪助教の働きにより立ち上がり、われわれも検討チームに加わったことは、本学の日ごろからの対応が認められたものとして評価できると考える。

教育に関しては医学部学生への講義2枠が減少したが、実習(3時間)が追加された事により、さらに効率的な輸血教育を実施できた。初期研修医教育は、例年通り1グループ14時間を7グループに対して実施した

星は、日本輸血細胞治療学会の法人担当理事として、法人事業の運営を軌道にのせる事で、社会的貢献をめざした。さらに、東京都の献血推進委員会委員、厚生労働省医薬品局:生物製剤による感染等副作用救済制度の判定部会員として、社会貢献をしている。

従って、少人数のマンパワー不足を考慮して、自己評価では前年に引き続き80点と考えたい。しかし、前年度に引き続き本年度も、マンパワーとともに研究費不足で、十分な研究業績を上げることができず、大学院規定の論文数の作成目標を達成できなかった。

研 究 業 績

I. 原著論文

- 1) Tasaki T, Gotoh K, Fujii K, Sasaki S, Satoh S, Takadate J, Otsubo H, Hoshi Y. Accumulated cytokines in stored autologous blood do not cause febrile nonhemolytic transfusion reactions. Transfus Apher Sci 2008; 39(1): 15-9.

- 2) Yura H, Kanatani Y, Ishihara M, Takase B, Nambu M, Kishimoto S, Kitagawa M, Tatsuzawa O, Hoshi Y, Suzuki S, Kawakami M, Matsui T. Selection of hematopoietic stem cells with a combination of galactose-bound vinyl polymer and soybean agglutinin, a galactose-specific lectin. *Transfusion* 2008; 48(3): 561-6.
- 3) 藤井康彦, 浅井隆善, 下平滋隆, 岡崎 仁, 佐竹正博, 加藤栄史, 藤井寿一, 羽藤高明, 中田浩一, 星 順隆. 重篤な急性輸血副作用に関する多施設共同研究. *日輸血細胞治療学会誌* 2008; 54(3): 406-10.
- ジャーナル社, 2008. p.76-85.
- 2) 星 順隆. 造血幹細胞移植患者に対する輸血. 神田善伸編. *みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床*: 上巻. 大阪: 医薬ジャーナル社, 2008. p.214-9.

III. 学会発表

- 1) 田崎哲典, 星 順隆, 猪狩次雄, 菅原亜紀子, 菅野隆浩, 大戸 斉. 関節リウマチ患者の自己血貯血における保存前白血球除去の意義. 第56回日本輸血細胞治療学会総会. 福岡, 4月. [*日輸血細胞治療学会誌* 2008; 54(2): 266]
- 2) 藤井康彦, 面川 進, 長村登紀子, 甲斐俊朗, 下平滋隆, 田崎哲典, 浅井隆善, 佐竹正博, 星 順隆. (ワークショップ2: 非溶血性輸血副作用)輸血細胞治療学会認定施設を中心として定点観測システムの構築. 第56回日本輸血細胞治療学会総会. 福岡, 4月. [*日輸血細胞治療学会誌* 2008; 54(2): 166]
- 3) 田崎哲典, 星 順隆. 血液製剤使用の適正化に向けてのヒント. 第93回日本輸血細胞治療学会東北支部例会. 秋田, 9月. [*日輸血細胞治療学誌* 2008; 54(6): 649]
- 4) Tasaki T, Hoshi Y. Is X-ray examination using dye advisable prior to autologous blood donation? AABB Annual Meeting and TXPO 2008. Montreal, Oct. [*Transfusion* 2008; 48(2S): 65A]
- 5) Fujii Y, Asai T, Shimodaira S, Hoshi Y, Takamoto S. A nationwide network of university hospital transfusion services to investigate transfusion reaction in Japan. AABB Annual Meeting and TXPO 2008. Montreal, Oct. [*Transfusion* 2008; 48(2S): 201A]
- 6) Fujii Y, Shimodaira S, Asai T, Hoshi Y, Takamatu J, Takamoto S. Establishment of a nationwide network of university hospital transfusion services to investigate the transfusion reaction in Japan. XXXth International Congress of the International Society of Blood Transfusion Meeting. Macao, Nov. [*Vox Sang* 2008; 95(Suppl.1): 159]

IV. 著 書

- 1) 星 順隆. 採取の実際. 小寺良尚編. *やさしい造血幹細胞移植へのアプローチ*. 改訂版. 大阪: 医薬